２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

平成３１年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史Ｂｂ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	高等学校　日本史Ｂ　新訂版（清水書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自国の歴史を学ぶことは現代を生きる私達にとって、これからの未来を作る私達にとって、必要不可欠なことです。日本国の歴史を学ぶ中で、多様な考え方、視点を持ち、常に疑問を投げかけながら授業を進めていきますので、みなさんも教科書と筆記用具と常に「なぜ」の見方を持って授業にのぞんでください。
成績は出席点、授業への取り組み、考査点、提出物で評価します。

２　学習の到達目標

①学習を通して日本国への関心を高める
②日本国の基本的な知識や歴史の流れを見につけ、考察する能力を身につける
③日本国の歴史を様々な要素と関連付けて、実証的、多角的、多面的、批判的に考察し自分の考えを適切に表現できる
④世界と日本国とのこれまでの関わりとこれからの関わりについて考察し、考えを適切に表現、行動することが出来る。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・日本国の歴史を学ぶ意義に気づき、日本国の歴史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・歴史を学ぶ中で平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく自覚をもって考える態度を身につけている	・日本国の歴史を地理的条件や世界の歴史などと関連付けて実証的、多角的、多面的、批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することが出来る	・日本国の歴史を学ぶための諸資料から、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に歴史の探求に活用することが出来る	・近代から現代に到るまでの日本国の歴史の流れ、基本的な知識を身につけている。 ・日本国を地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら理解出来る
評価方法	・授業プリントへの書き込み ・課題 ・出席点	・課題 ・定期試験	・課題	・課題 ・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	第4編　近代1明治期 第5編　近代2大戦期 第6編　現代	・近世から近代社会へ	○		○		a:現代に繋がる動きに関心を持ち、主体的に学習に取り組み民主的な社会の形成者としての自覚をもって考えることが出来る b:近現代史の展開や現代社会について歴史的に考察し、適切に表現できる c:これまで当たり前とされてきた資料でさえも批判的、多面的に資料を読み解き、考察することが出来る d:二つの世界大戦と太平洋戦争による日本国の状況など現代に直結する内容を理解し、未来を考える上での知識として定着しているかどうか	・出席 ・課題 ・定期考査
		・明治維新と立憲国家の成立	○	○		○		
		・日清・日露戦争と東アジア	○	○		○		
		・近代産業の発展と国民生活	○	○				
		・第一次世界大戦と日本の社会	○	○	○	○		
		・政党政治の発展と大衆社会	○	○		○		
		・第二次世界大戦への道	○	○	○	○		
		・第二次世界大戦と日本の社会	○	○	○	○		
		・占領下の日本	○			○		
		・日本の独立と戦後政治	○	○		○		
		・経済大国日本への道	○	○	○			
		・現代の世界と日本	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。